

宮崎県における 野生イノシシ豚熱対策について

令和 5 年 9 月 2 8 日

宮崎県 農政水産部

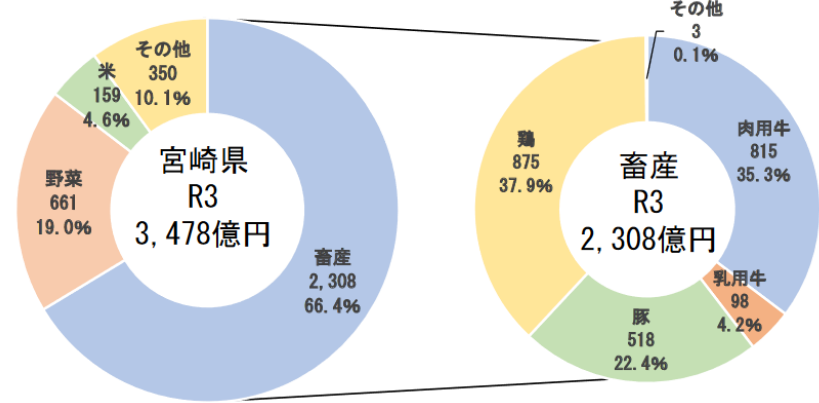
農政企画課 中山間農業振興室



宮崎県の養豚をめぐる状況

- 宮崎県の農業産出額は**3,478億円**（全国第4位）。**畜産は2,308億円**と産出額全体の7割近くを占める。
- 宮崎県は、**豚の産出額518億円（全国2位）、飼養頭数約82万頭（全国2位）の一大養豚県**。万が一、豚熱が発生した場合には、**県内経済に与える影響は甚大**。

宮崎県の農業産出額の構成



資料：農林水産省 生産農業所得統計(令和3年)

豚の産出額（都道府県別順位）

(単位：億円)

	都道府県別順位				
	1	2	3	4	5
豚	鹿児島 900	宮崎 518	北海道 512	群馬 468	千葉 393

資料：農林水産省 生産農業所得統計(令和3年)

豚の飼養頭数（都道府県別順位）

(単位：頭)

	全国	九州	都道府県別順位					宮崎県／ 全国シェア
			1	2	3	4	5	
豚	8,956,000	2,818,000	鹿児島 1,153,000	宮崎 818,200	北海道 759,000	群馬 593,700	千葉県 588,400	9.1%

資料：農林水産省 畜産統計(令和5年2月1日現在)

豚熱に備えた体制整備

- ・野生イノシシにおける豚熱への感染が全国的に拡大する中で、山口県において令和4年3月に野生イノシシでの豚熱陽性事例が確認。国内有数の養豚地帯である九州の目前まで豚熱ウイルスの侵入リスクが迫っていることに危機感。
- ・九州で豚熱が発生した場合、宮崎県では飼養豚へのワクチン接種対応で手一杯になり、野生イノシシ対策が後手に回る可能性があった。このため、豚における対策と野生イノシシにおける対策の担当課を分け、迅速かつ的確な対応ができるよう体制を整備。

／ 家畜防疫の主管課

飼養豚対策 ⇒ 家畜防疫対策課が担当

- ワクチン接種に備えた準備
 - ・ ワクチン接種プログラム（案）の策定
 - ・ 登録飼養衛生管理者に対する研修会
- 養豚農場への立入検査、巡回指導 等

／ 鳥獣被害対策を所掌

野生イノシシ対策 ⇒ 中山間農業振興室が担当

- ワクチン散布に向けた準備
 - ・ 県協議会の設立
 - ・ ワクチン散布エリア・地点の事前選定
- 猟友会、ジビエ取扱い業者への情報提供 等

- ・ 担当を分けることにより、目前に迫っている豚熱侵入のリスクに迅速に対応。
- ・ 万が一、豚熱が発生した場合にも、家畜防疫対策課が本丸である飼養豚への対応に注力できる体制を構築。

野生イノシシにおける豚熱対策の開始

- ・ 令和5年4月から野生イノシシにおける豚熱対策を本格的に検討開始。速やかに経口ワクチン散布のための協議会を立ち上げることを目標に関係者間での協議を経て、**「宮崎県豚熱経口ワクチン協議会」**を令和5年6月に設立。
- ・ **豚熱が発生してから散布地点を検討するのでは対策が後手に回る**との考えから、協議会設立後、すぐに**経口ワクチン散布の候補地点の選定を開始**。

宮崎県豚熱経口ワクチン協議会（令和5年6月6日 設立）

<構成員>

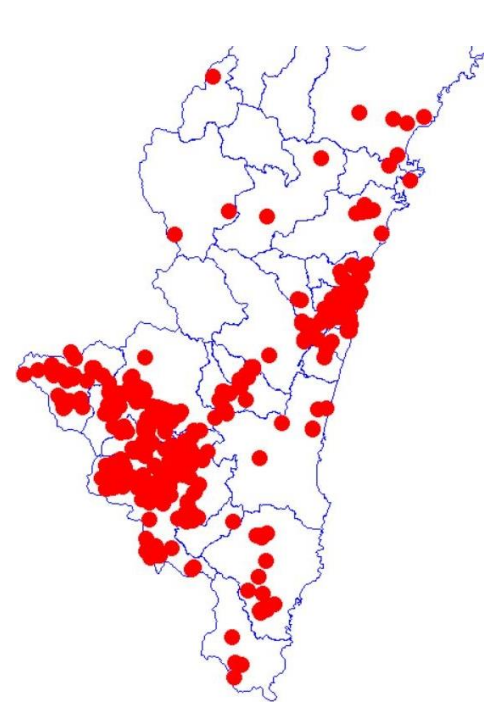
- ・ 宮崎県（中山間農業振興室、畜産振興課、家畜防疫対策課、衛生管理課、自然環境課、西臼杵支庁、中部、南那珂、北諸県、西諸県、児湯、東臼杵農林振興局）
- ・ 県内全市町村（26市町村）
- ・ 宮崎県市長会
- ・ 宮崎県町村会
- ・ 公益社団法人宮崎県畜産協会
- ・ 一般社団法人宮崎県猟友会
- ・ 九州森林管理局宮崎森林管理署

8月末までに**1地域につき100か所（県内700箇所）**の
経口ワクチン散布候補地点を選定することを目標に検討開始

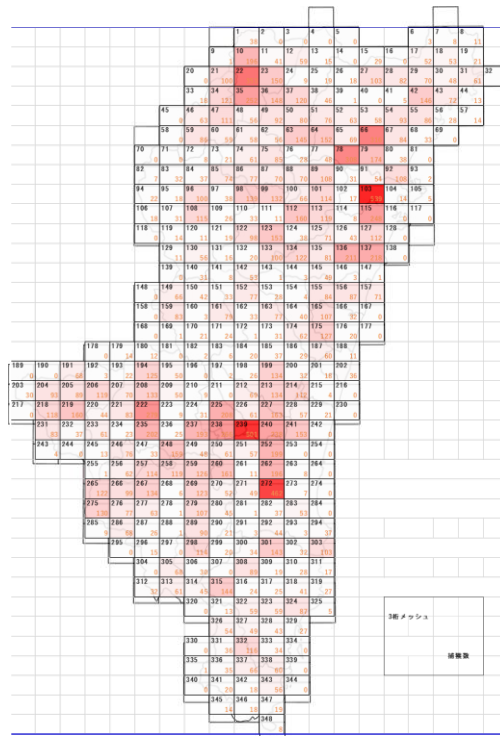
宮崎県における経口ワクチン散布地点選定の考え方

- 豚熱に感染した野生イノシシはどこで見つかるか分からないことから、**県内700箇所を選定し、発生地点に応じて、その中から戦略的に適切な散布地点を選ぶ**方式に。
- 選定に当たっては、**県内における養豚場の分布、イノシシの捕獲状況、国有林・民有林の分布状況**等を踏まえ、地元猟友会、市町村と協議。**養豚場の集中する県央、県西、県南地域を中心に守れるよう**に散布候補地点を選定。
- 散布候補地点については、**G I Sシステム上で集約し、庁内システムから閲覧可能**とした。

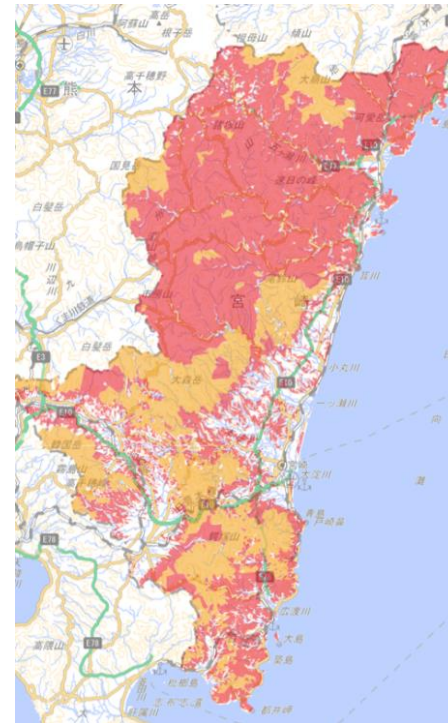
養豚場の分布



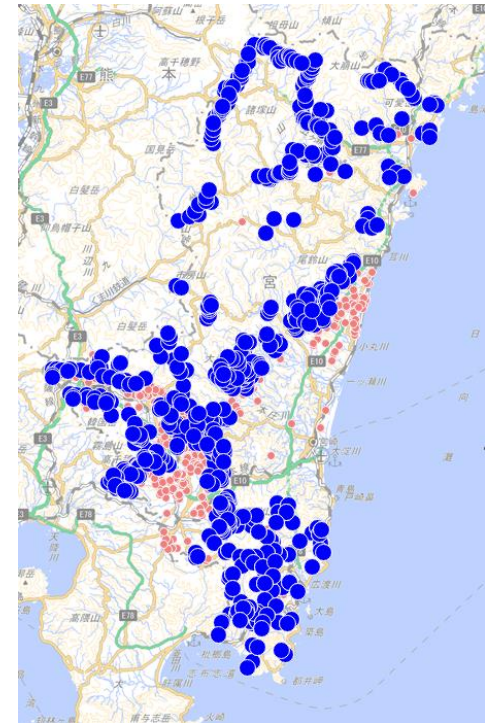
イノシシの捕獲状況



国有林・民有林の分布状況



ワクチン散布候補地点



● 養豚場 ● ワクチン散布候補地

経口ワクチン散布演習の開催

- ・ 経口ワクチン散布は、未だ経験したことがない作業であることから、**作業従事者の知見、技術が不十分**。このため、**農林水産省動物衛生課、農研機構の協力を得て**、7月26、27日の2日間の日程で**経口ワクチン散布演習を九州で初めて開催**。
- ・ 県内の関係者のほか、野生イノシシ対策では**隣県との協力が重要**になるとの考えのもと、**大分県、熊本県、鹿児島県の家畜防疫担当者にも参加を呼びかけ**。

演習概要

- ・ **日時**：7月26日（水）、27日（木）
- ・ **場所**：宮崎県総合農業試験場、国富町
- ・ **参加機関**：農林水産省 消費・安全局 動物衛生課
九州農政局 消費・安全部、宮崎県拠点
農研機構 畜産研究部門 動物行動管理グループ
宮崎県 農政水産部 農政企画課中山間農業振興室、家畜防疫対策課
環境森林部 自然環境課
総合農業試験場 鳥獣被害対策支援センター
家畜保健衛生所
西臼杵支庁・各農林振興局
公益社団法人 宮崎県畜産協会
一般社団法人 宮崎県猟友会
大分県
熊本県
鹿児島県
- ・ **演習内容**：座学での基本知識・作業手順説明、実地での演習、関係者による意見交換

⇒ **約60名が参加**

＜参加者の感想＞

- ・ 散布作業自体は、**想像していたよりもシンプル**なものだったが、この作業を何十、何百箇所とするのは**大変な重労働**。
- ・ **イノシシの生態を知ることが、経口ワクチンの摂食率を上げるためのポイントだと実感**できた。



防疫着着用時の注意事項説明



散布ポイント選定の説明



散布時の注意点を解説



作業車両消毒の実演

演習の成果

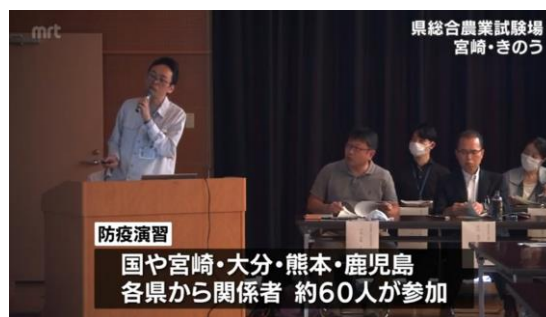
- ・ 演習については、九州初の試みということで県内でも大きく報道。養豚関係者をはじめ、県民の豚熱への警戒感を高める契機となったものと考えている。
- ・ また、演習の様子を動画で撮影し、演習に参加できなかった者も映像で手順を把握できるようにするとともに、演習内容を基に散布作業マニュアルを作成。

イノシシの豚熱感染警戒 県、ワクチン散布演習 九州で初



野生イノシシによる豚熱感染拡大を防ぐと、模擬経口ワクチンを使って行われた散布演習＝26日午後、宮崎市佐土原町

「イノシシの豚熱感染警戒 県、ワクチン散布演習」
宮崎日日新聞. 2023-07-27,朝刊, 1面



「強い伝染力と高い致死率が特徴 家畜伝染病「豚熱」の発生を想定 宮崎県で防疫演習」
MRT宮崎放送. 2023-07-27



演習
イノシシに食べさせるタイプのワクチン(サンプル)を
散布し作業手順などを確認

～ 散布マニュアル ～



- ・ 演習時の写真を用いて散布マニュアルを作成。
- ・ 散布作業の際のポイントを視覚的に把握できるように工夫。

⇒ 将来的に担当が変わったり、外部に作業を委託したりする場合などにも効率的に業務の引継・説明が可能に。

- ・佐賀県での豚熱発生を受けて、**より一層の危機感**を持って豚熱の侵入リスクに備えるため、**野生イノシシのサーベイランスを強化**するとともに、今後、経口ワクチン散布地域となった場合に、**速やかに経口ワクチン散布を開始できるよう**、県庁職員による**経口ワクチン散布チームの編成**、県内各地域で選定した**散布候補地点の更なる精査**等準備を進めているところ。
- ・豚熱感染イノシシの県内への侵入に備えた体制整備と、戦略的な散布地点の選定により、**県内養豚場へのウイルス侵入リスクの低減**を目指す。

サーベイランスの強化

佐賀県での発生を踏まえ、野生イノシシにおける豚熱ウイルスの浸潤状況を更に正確に把握するため、**検査頭数目標を60頭／月に増頭**。

散布チームの編成

県の出先機関（各地域の農林振興局等）に**経口ワクチン散布チームを編成（1チーム4名体制）**。今後、**散布チーム向けの研修会を実施**予定。

散布候補地点の精査

既に選定済みの散布候補地点について、**実際の散布に向けた現地確認、道路管理者等との協議など更なる精査**を進める。

狩猟者等への注意喚起

狩猟者へ改めて**消毒の徹底を注意喚起**するとともに、ジビエ処理加工施設へ**豚熱感染確認時のジビエ利用手順について情報提供**を行う。



**十分な散布体制整備と
戦略的な散布地点の選定による
効果的かつ効率的なワクチン散布**

➡ **県内養豚場への
ウイルス侵入リスクの低減！**